

Ⅱ. 調査の結果

1. 和歌山市のまち・ひと・しごと創生について

問8 和歌山市への移住を勧めたいか

問8 あなたは、県外にお住まいのご家族やご友人に和歌山市への移住を勧めたいですか？

1. 勧めたい

2. 勧めたくない

全体では、「勧めたい」が41.0%、「勧めたくない」が56.6%となった。

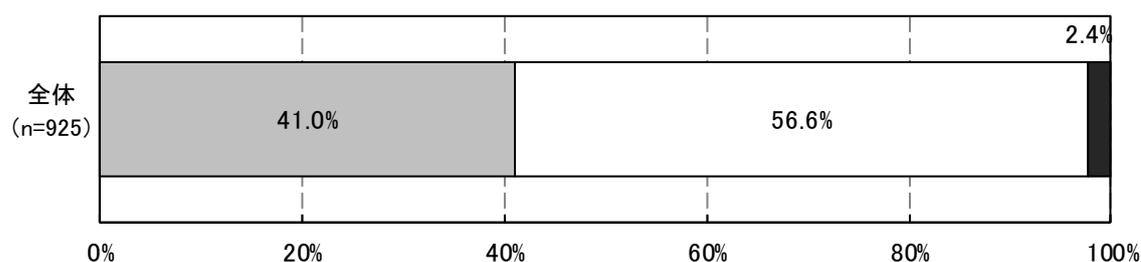
男女別では、「勧めたい」と回答された男性の割合は39.0%、女性は42.4%となり、女性のほうが勧めたいと考えている傾向が見られる。

年代別では、「勧めたい」と回答された方の割合が最も高かった年代は「80歳以上」(49.2%)となった。次いで、「50～59歳」(45.3%)、「40～49歳」(42.7%)と続いた。

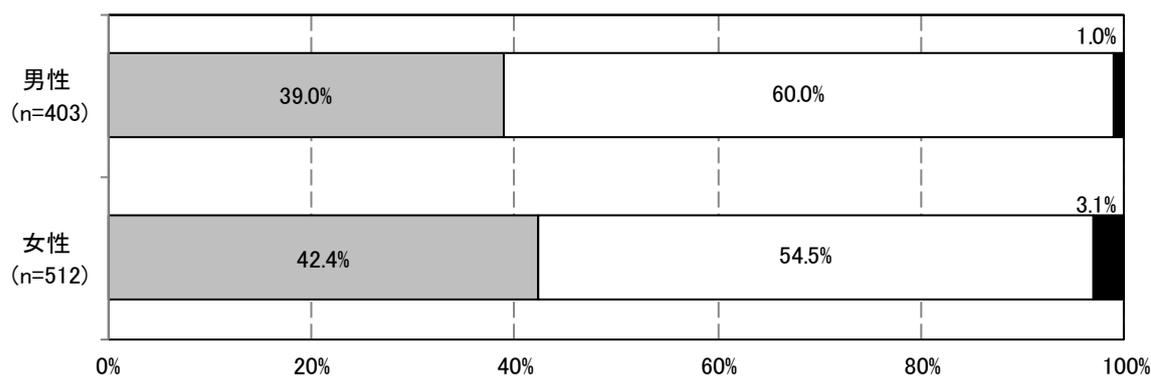
地域別では、「中心部」、「河西部」にて「勧めたい」と回答された方の割合が40%を超える結果となった。

<全体>

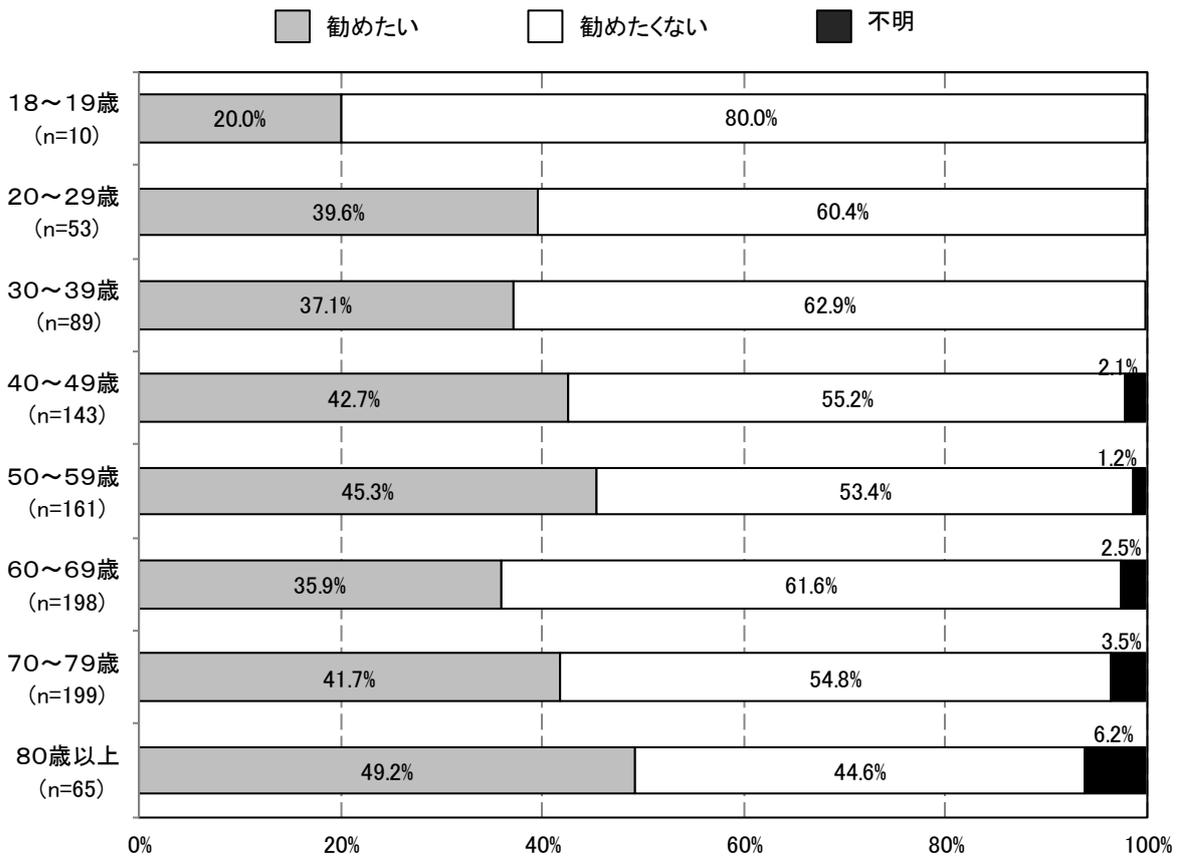
■ 勧めたい □ 勧めたくない ■ 不明



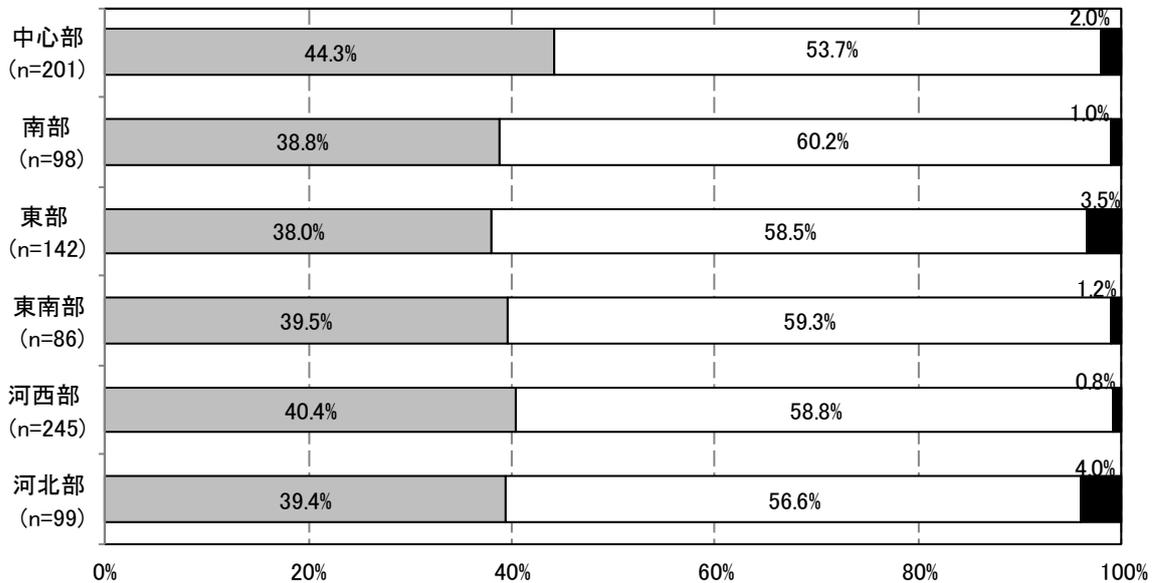
<男女別>



<年代別>



<地域別>



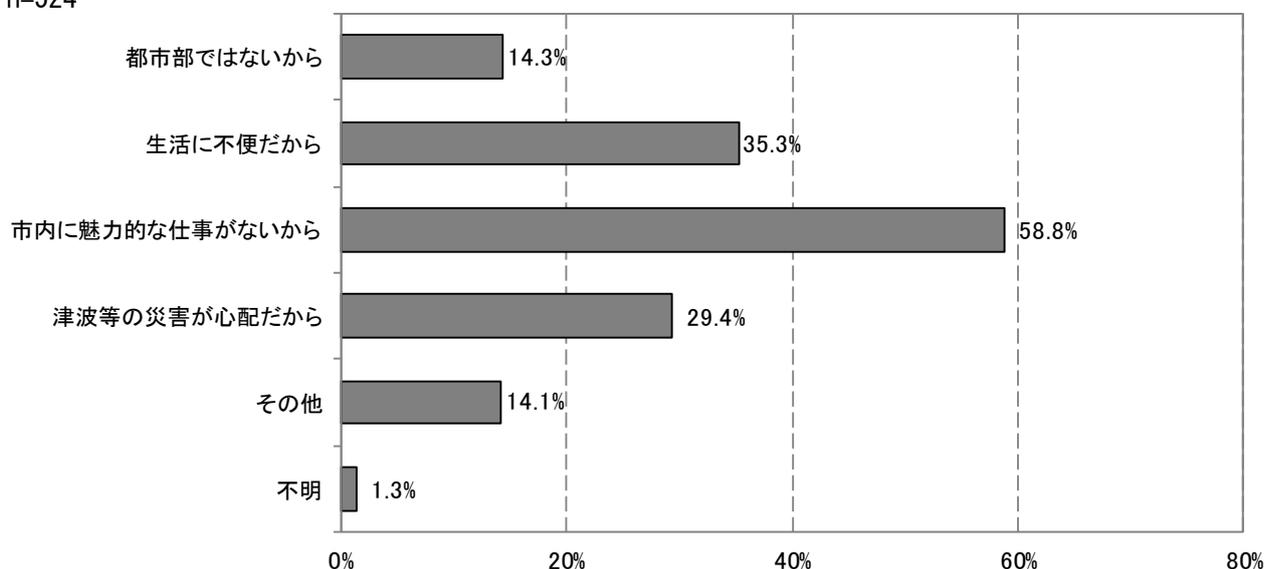
問8-1 移住を勧めたくない理由

問8-1 問8で「2. 勧めたくない」と回答された方のみお答えください。勧めたくない理由は何ですか？あてはまるものを全てお選びください。

1. 都市部ではないから
2. 生活に不便だから
3. 市内に魅力的な仕事がないから
4. 津波等の災害が心配だから
5. その他

移住を勧めたくない理由として、最も多かった回答は、「市内に魅力的な仕事がないから」でその割合は58.8%となった。次いで「生活に不便だから」(35.3%)、「津波等の災害が心配だから」(29.4%)と続いた。

n=524



その他：「公共交通が不便」、「魅力が薄い」、「待遇のよい仕事が少ない」 など

問9 市外に向けたPR状況

問9 市外に向けた和歌山市のPRは十分だと思いますか？

1. 思う

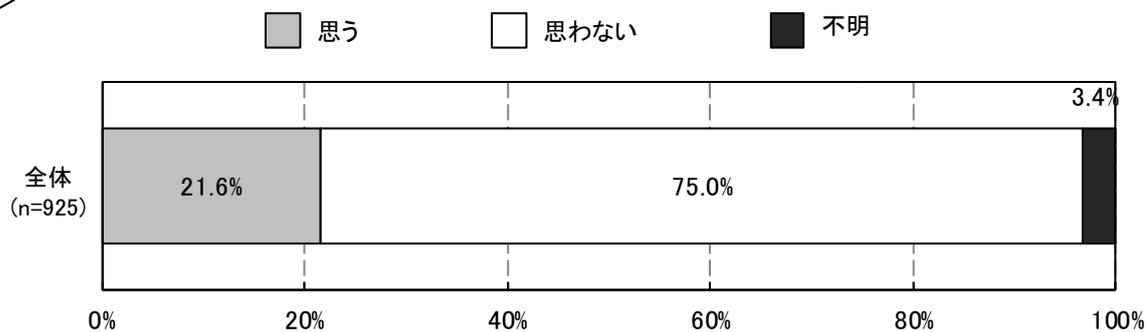
2. 思わない

全体では、市外に向けたPRが十分だと「思う」と回答された方の割合は21.6%、「思わない」の割合は75.0%となった。

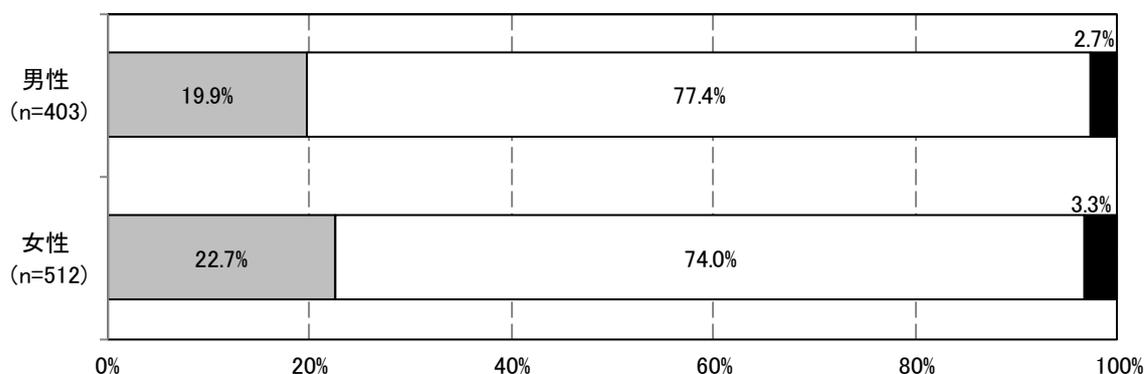
男女別では、PRが十分だと思う方の割合は男性で19.9%、女性で22.7%となった。

年代別では、PRが十分だと思う方の割合が最も高かった年代は「30～39歳」(30.3%)、次いで「18～19歳」(30.0%)、「20～29歳」(24.5%)となった。

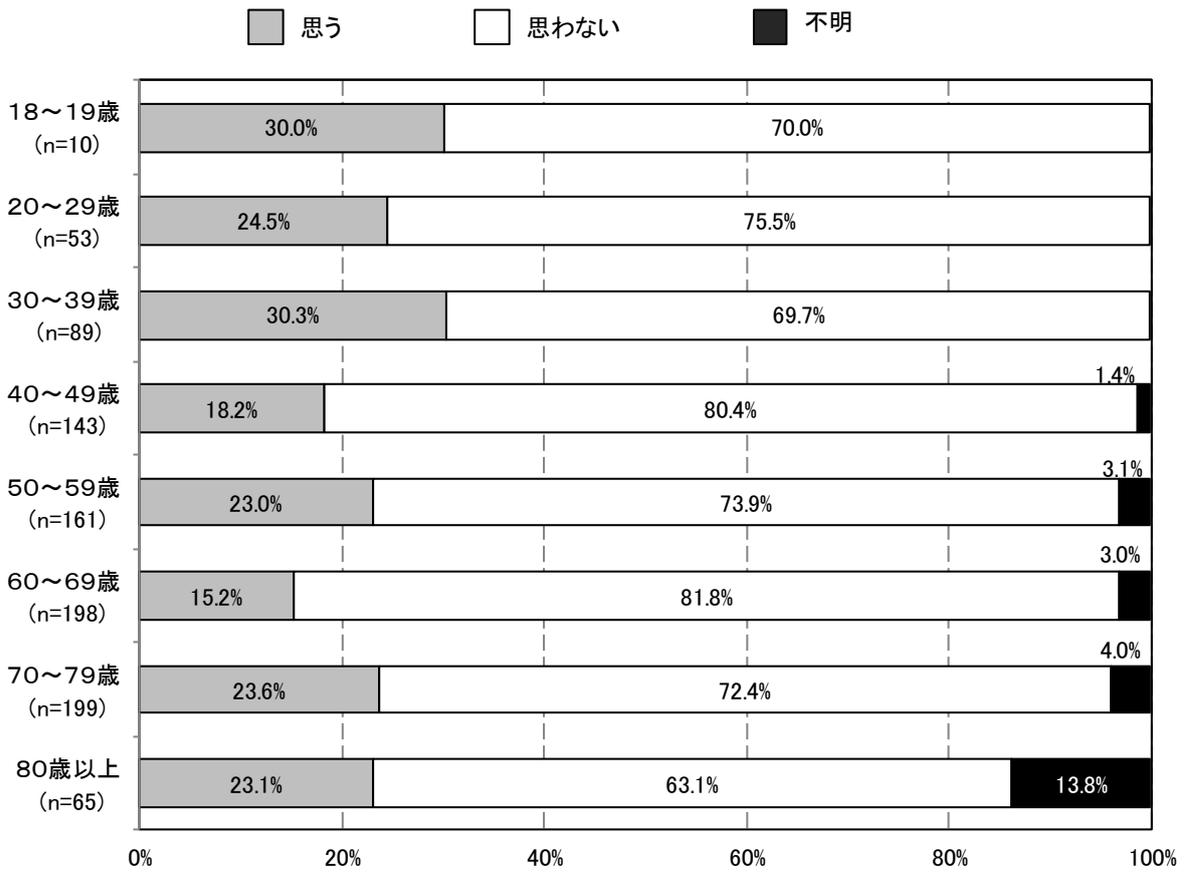
<全体>



<男女別>



<年代別>



問9-1 和歌山市のPRが不十分だと思う利用

問9-1 問9で「2. 思わない」と回答された方のみお答えください。最も不十分だと思う理由は何ですか？あてはまるものを1つお選びください。

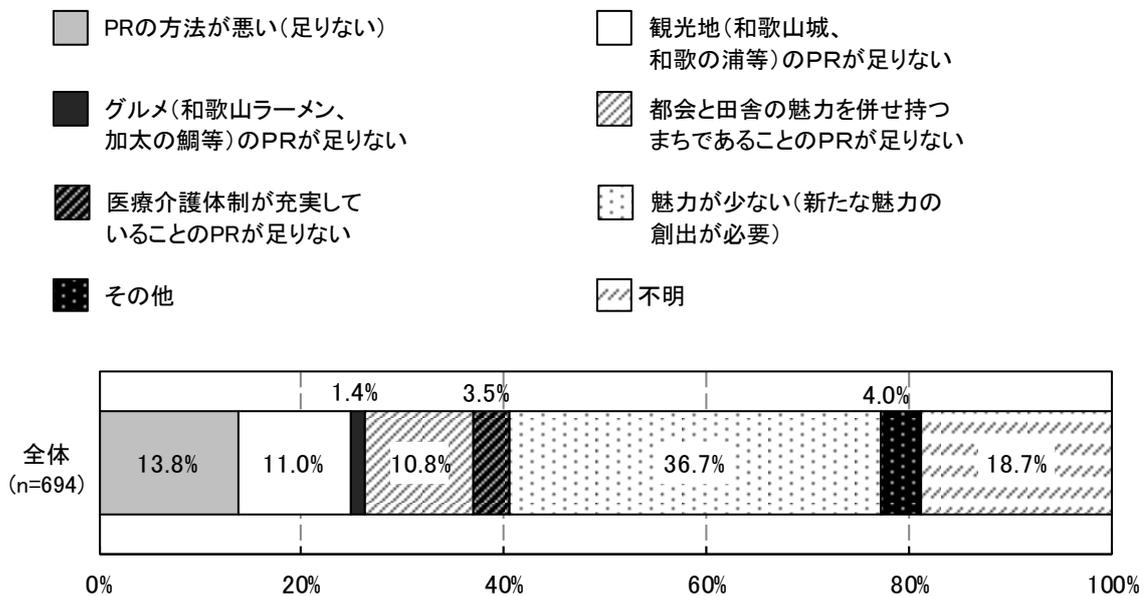
1. PRの方法が悪い（足りない）
2. 観光地（和歌山城、和歌の浦等）のPRが足りない
3. グルメ（和歌山ラーメン、加太の鯛等）のPRが足りない
4. 都会と田舎の魅力を併せ持つまちであることのPRが足りない
5. 医療介護体制が充実していることのPRが足りない
6. 魅力が少ない（新たな魅力の創出が必要）
7. その他

全体では和歌山市のPRが不十分だと思う理由で、最も多かった回答は「魅力が少ない（新たな魅力の創出が必要）」(36.7%)となった。次いで、「PRの方法が悪い（足りない）」(13.8%)、「観光地（和歌山城、和歌の浦等）のPRが足りない」(11.0%)と続いた。

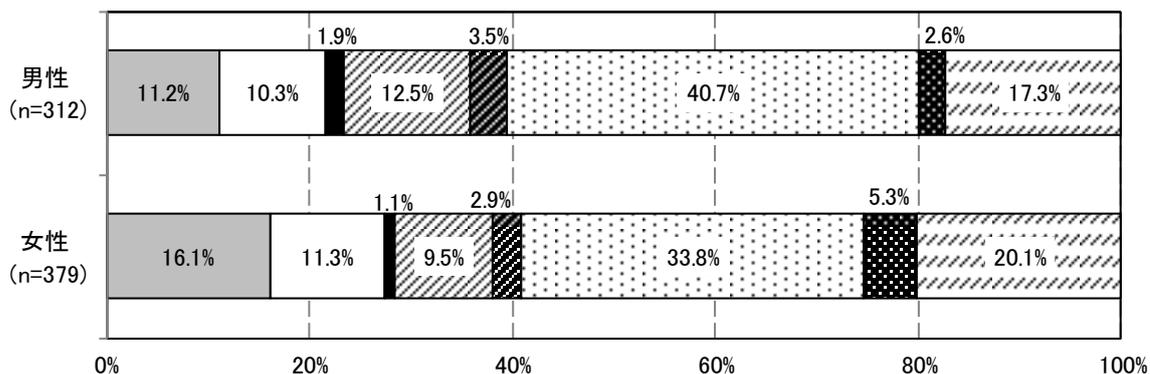
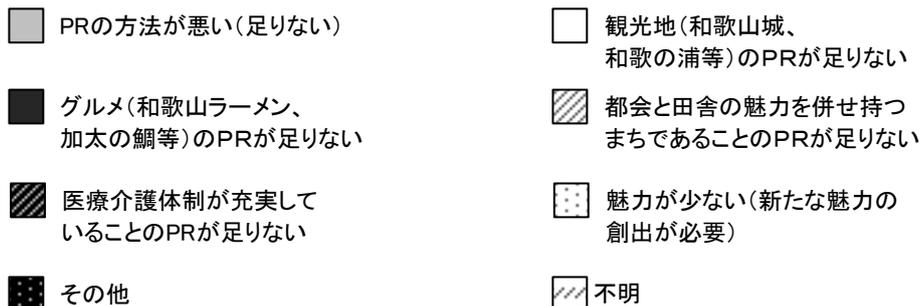
男女別では、「魅力が少ない（新たな魅力の創出が必要）」と回答された方の割合は、男性が40.7%、女性は33.8%となり、男性のほうが魅力が少ないと考える傾向が見られた。

年代別では、「18～19歳」、「20～29歳」にて「魅力が少ない（新たな魅力の創出が必要）」と回答された方の割合が40%を超える結果となった。

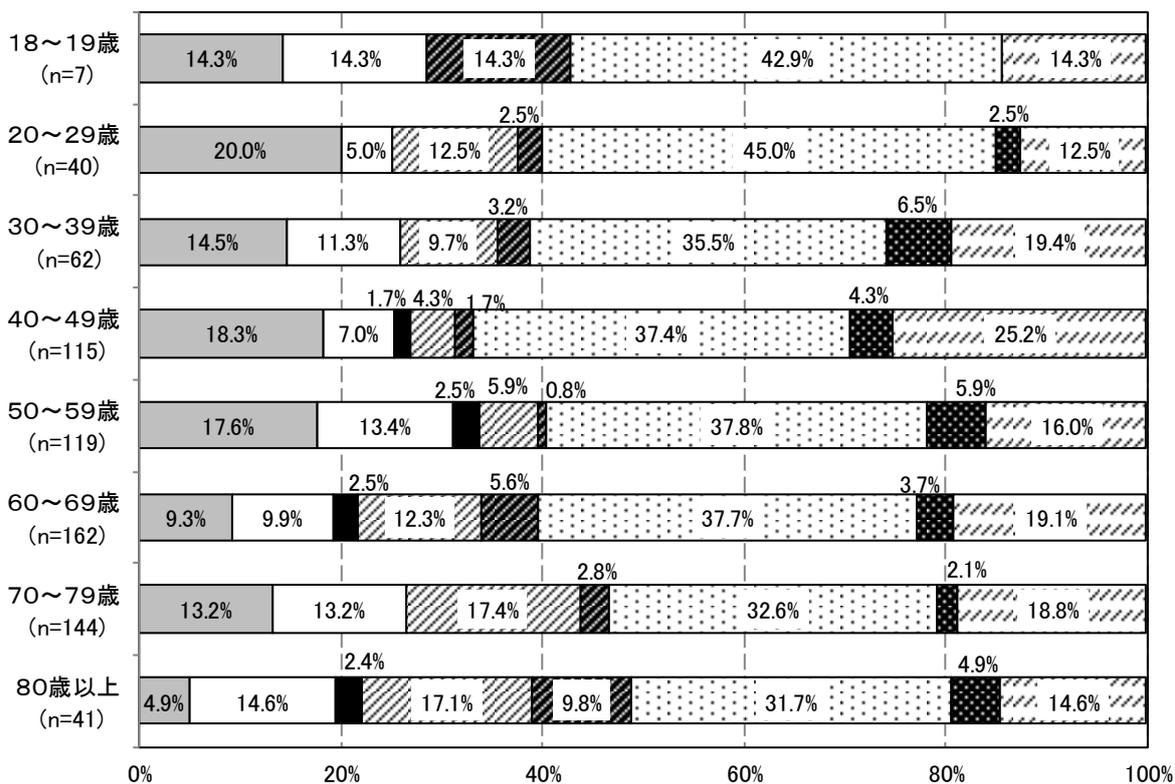
<全体>



<男女別>



<年代別>



その他：「PR していることを知らない」、「PR の前にすべきことがある」 など

問10 まちなかエリアに住みたいかどうかについて

問10 あなたは、まちなかエリアに住みたいと思いますか？

1. 思う

2. 思わない

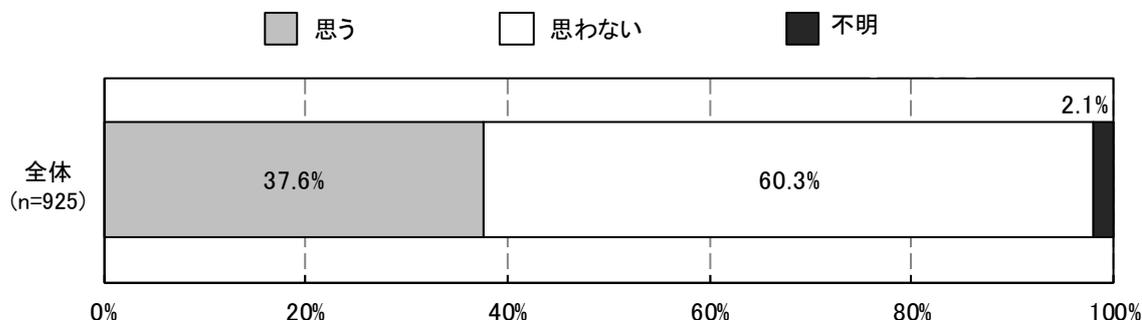
まちなかエリアに住みたいかどうかについて、全体では、住みたいと「思う」と回答された方の割合は37.6%、「思わない」が60.3%となった。

男女別では大きな差異は見られなかった。

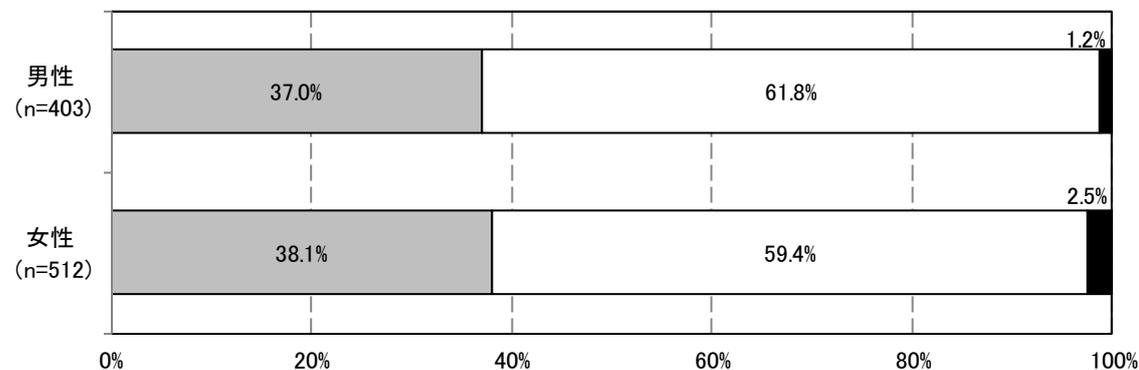
年代別では、住みたいと「思う」と回答された方の割合が最も高かった年代が「18～19歳」で80.0%となったが、他の年代では50%以下となり、「30～39歳」で41.6%、「50～59歳」で41.0%と続いた。

地域別では、住みたいと「思う」と回答された方の割合が最も高かった地域は「中心部」で67.2%となったが、他の地域では40%以下となり、「東部」で34.5%、「南部」で28.6%と続いた。

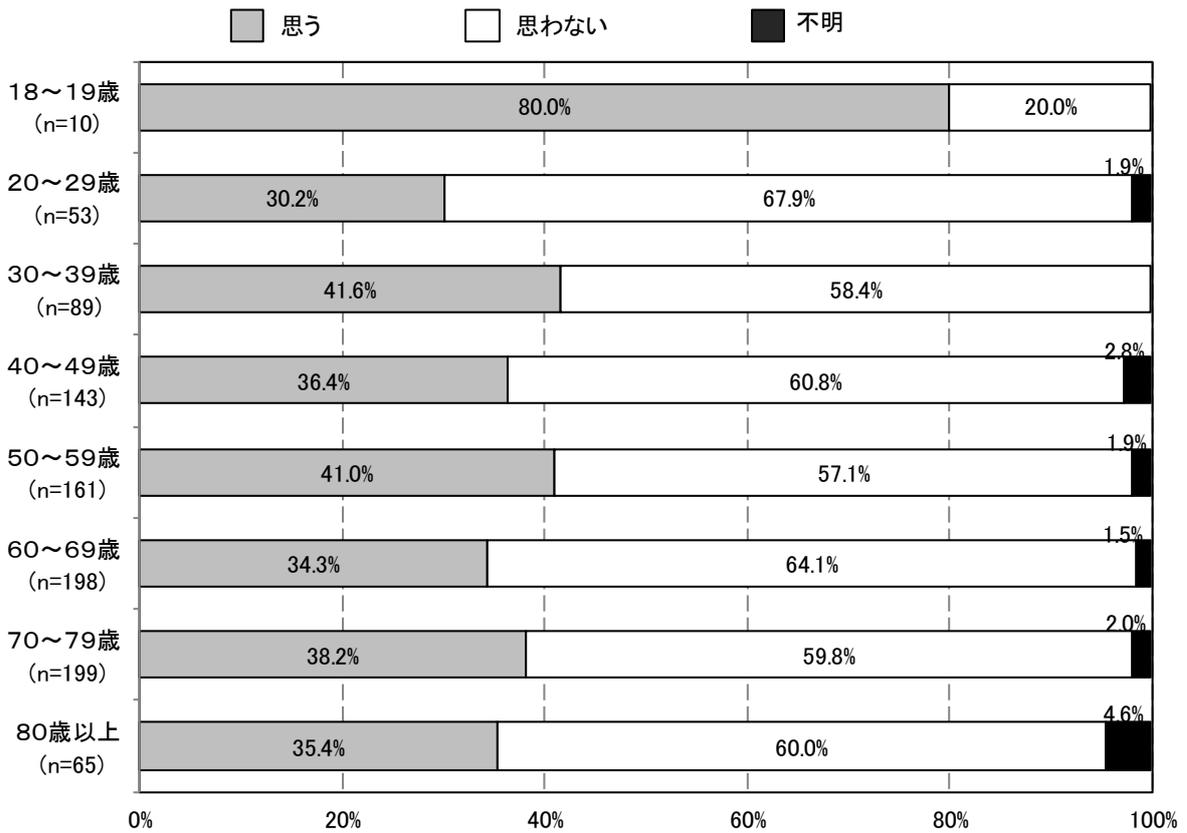
<全体>



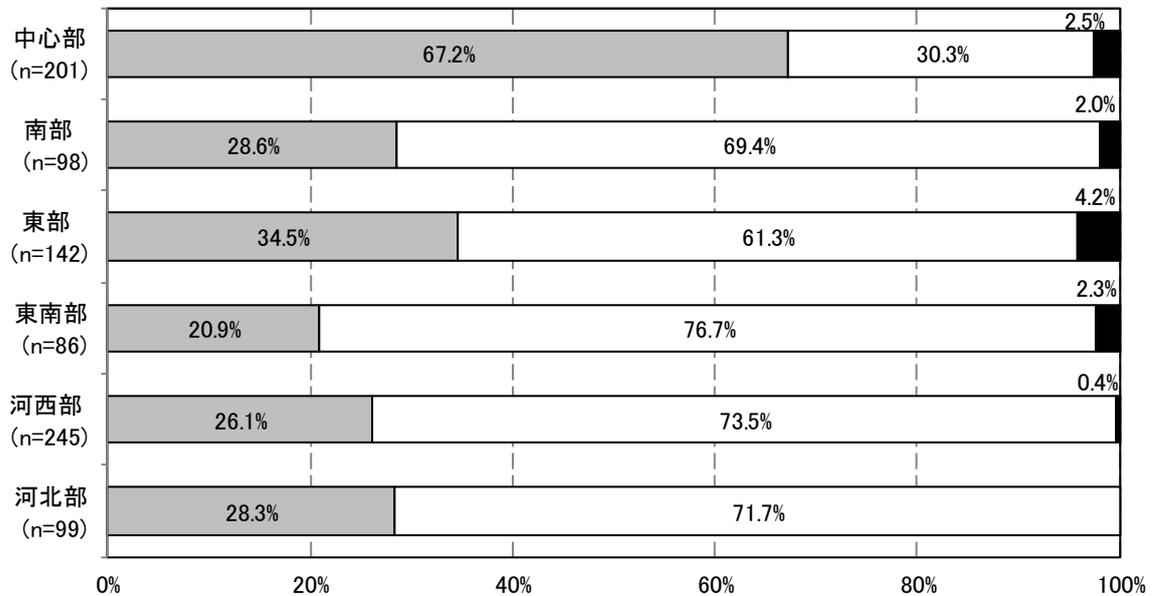
<男女別>



<年代別>



<地域別>

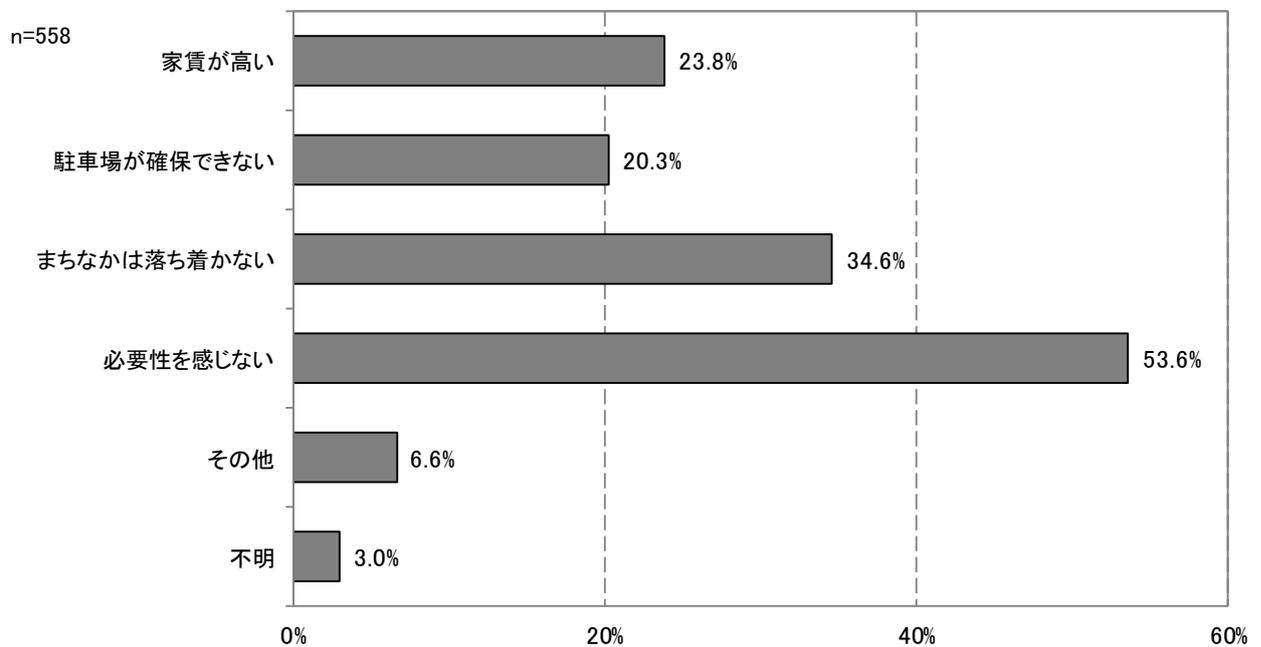


問10-1 まちなかエリアに住みたくない理由

問10-1 問10で「2. 思わない」と回答された方のみお答えください。理由としてあてはまるものを全てお選びください。

1. 家賃が高い
2. 駐車場が確保できない
3. まちなかは落ち着かない
4. 必要性を感じない
5. その他

まちなかエリアに住みたくない理由として最も多かった回答が「必要性を感じない」でその割合は53.6%となった。次いで、「まちなかは落ち着かない」(34.6%)、「家賃が高い」(23.8%)と続いた。



その他：「まちなかでも交通の不便なところがある」、「畑が遠い」 など

問 1 1 男性に育児参加を促すために必要なこと

問 1 1 今まで以上に、男性の育児参加を促すため、特に必要なことは何だと思えますか？あてはまるものを1つお選びください。

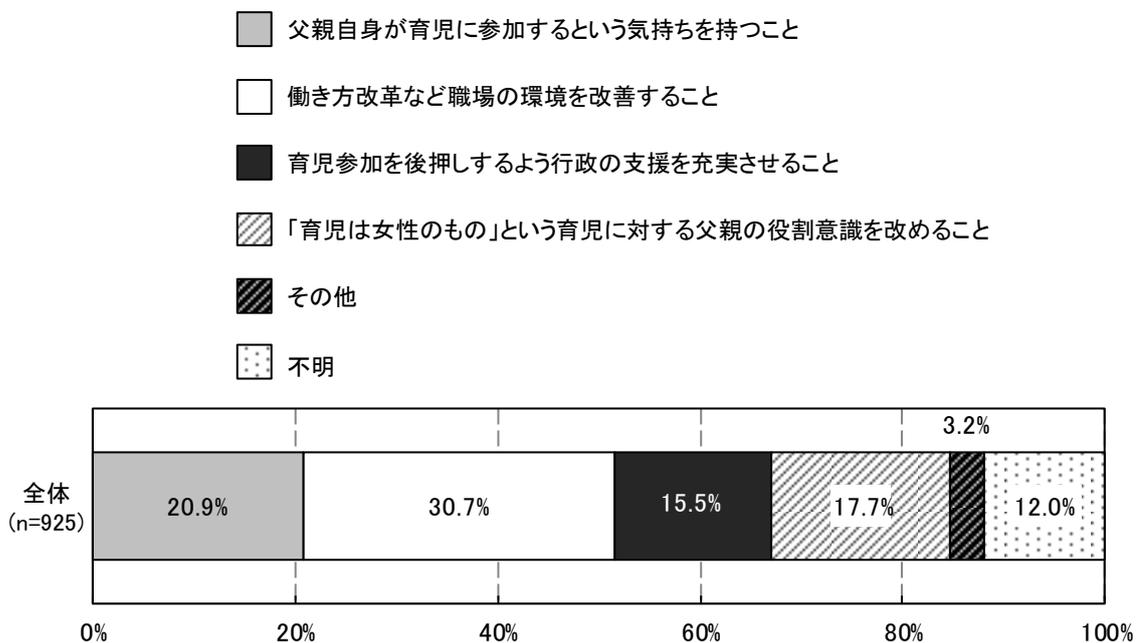
1. 父親自身が育児に参加するという気持ちを持つこと
2. 働き方改革など職場の環境を改善すること
3. 育児参加を後押しするよう行政の支援を充実させること
4. 「育児は女性のもの」という育児に対する父親の役割意識を改めること
5. その他

男性に育児参加を促すために必要なこととして、全体で最も多かった回答は「働き方改革など職場の環境を改善すること」でその割合は 30.7%となった。次いで、「父親自身が育児に参加するという気持ちを持つこと」(20.9%)、「『育児は女性のもの』という育児に対する父親の役割意識を改めること」(17.7%)と続いた。

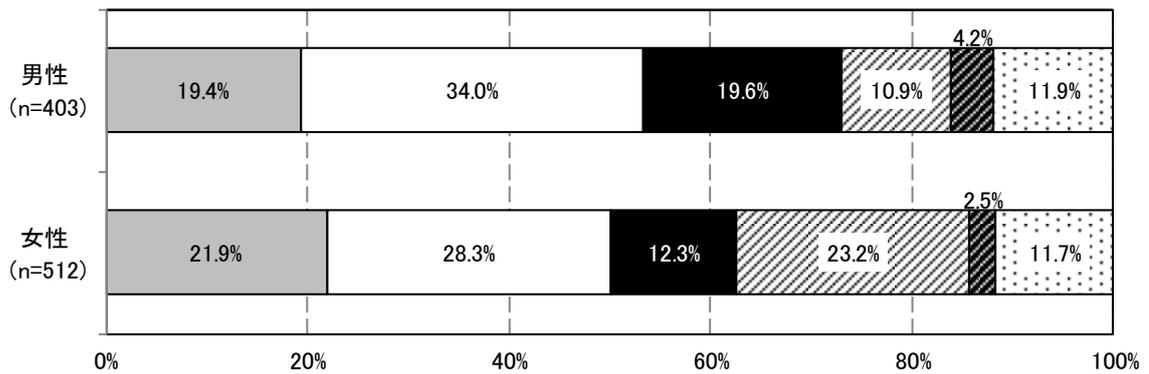
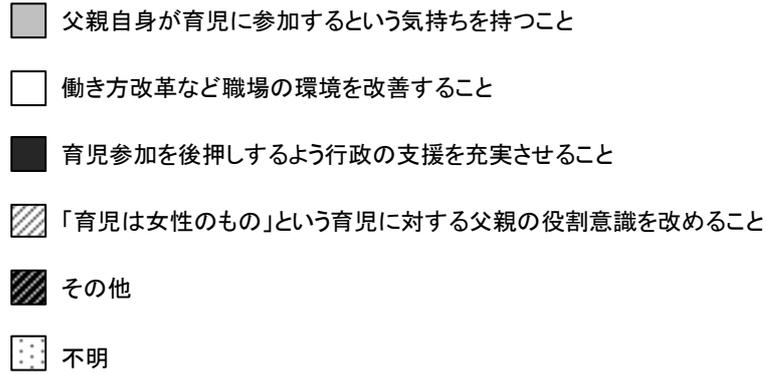
男女別では、「『育児は女性のもの』という育児に対する父親の役割意識を改めること」にて男女間で大きく差異が見られ、男性の割合は 10.9%、女性は 23.2%となった。

年代別では、「働き方改革など職場の環境を改善すること」と回答された方の割合が最も高かったのは「20~29歳」(43.4%)となった。次いで「18~19歳」(40.0%)となり、若い世代において、40%以上の回答となった。

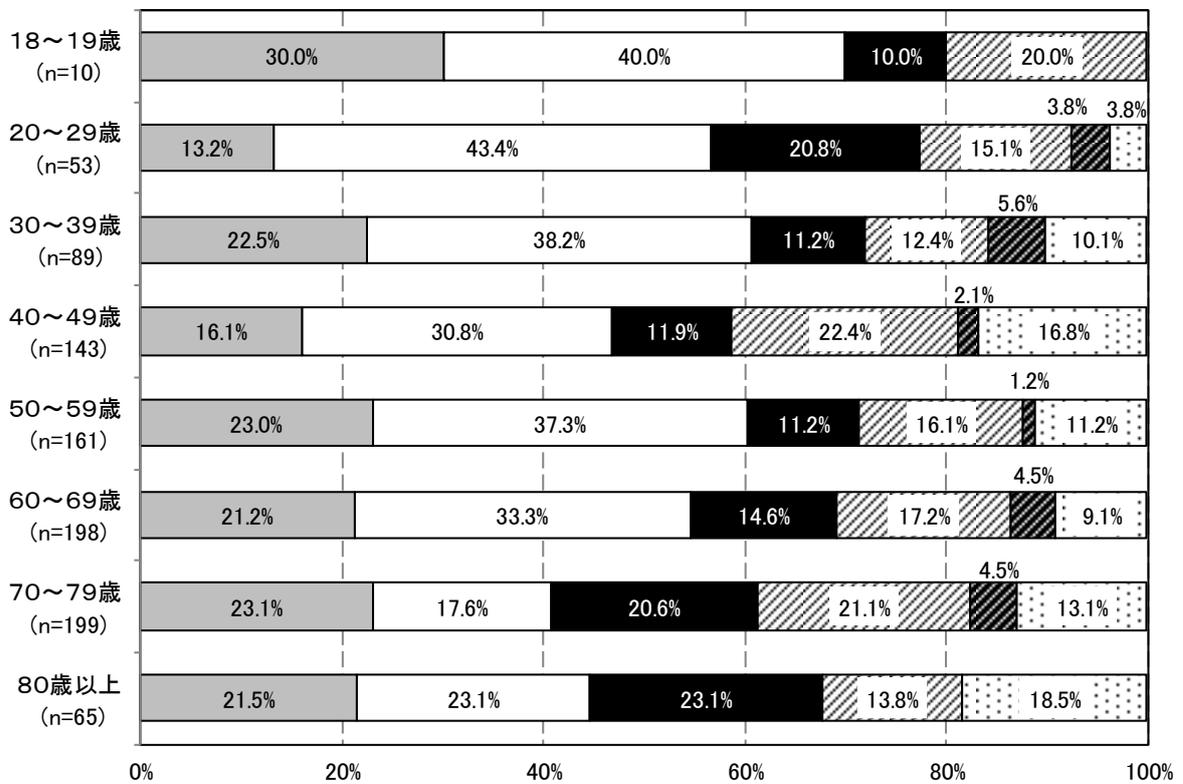
<全体>



<男女別>



<年代別>



その他：「不要」、「意識を変える」 など

問 1 2 生涯学習活動の実施状況

問 1 2 あなたは、日頃から趣味的、教養的な活動やスポーツ的な活動等の生涯学習活動を行っていますか？

1. はい

2. いいえ

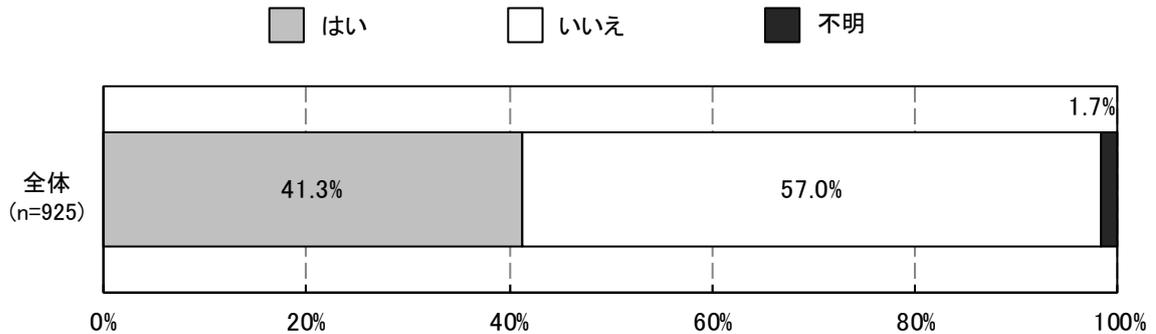
生涯学習活動の実施状況について、全体では行っている方の割合は 41.3%、行っていない方の割合は 57.0%となった。

男女別では、生涯学習活動を行っている男性の割合は 43.7%、女性は 39.5%となり、男性のほうが高い割合となった。

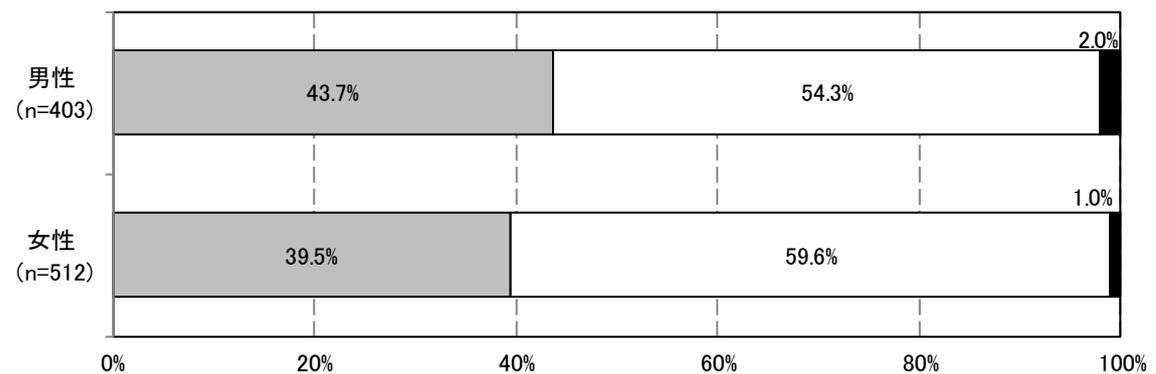
年代別では、生涯学習活動を行っている方の割合が最も高かった年代が「18～19 歳」(50.0%)となり、次いで「70～79 歳」(47.7%)、「60～69 歳」(41.4%)と続いた。

地域別では、すべての地域において生涯学習活動を行っている方の割合が 40%を超える結果となった。

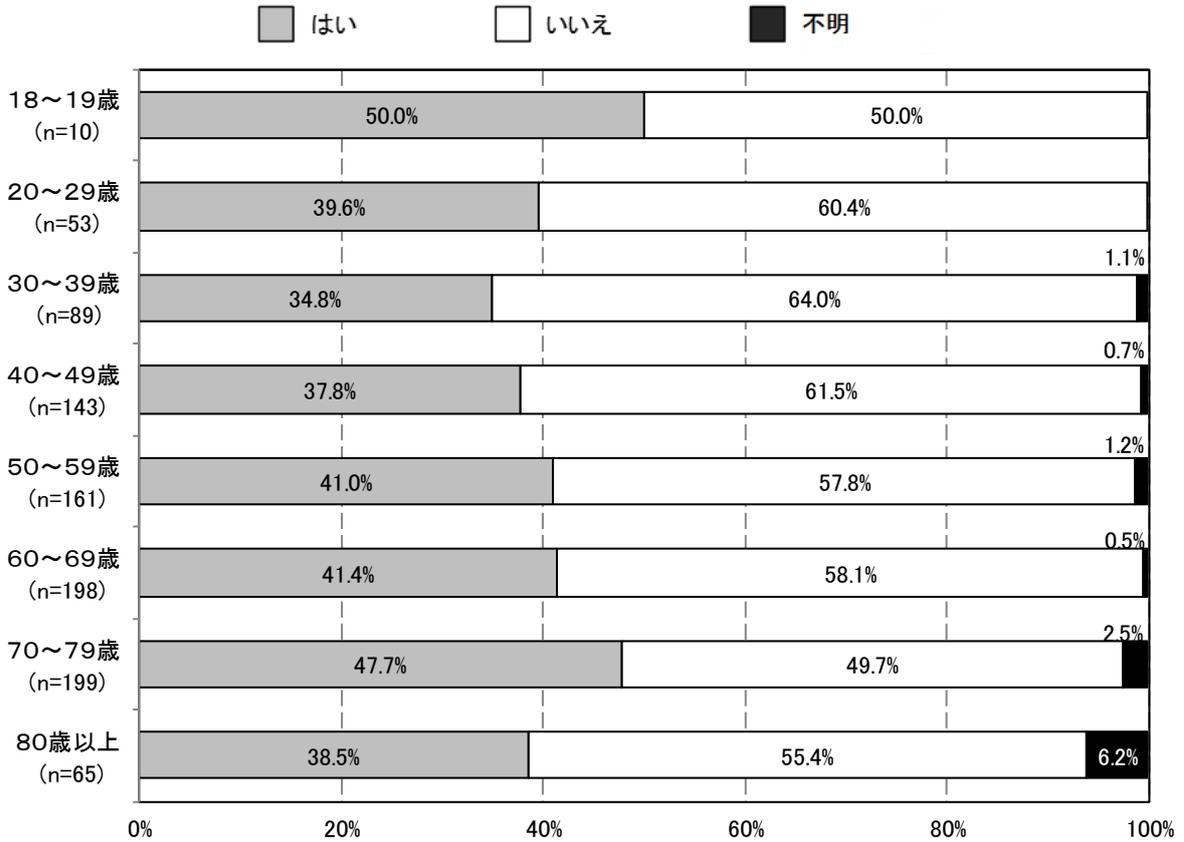
<全体>



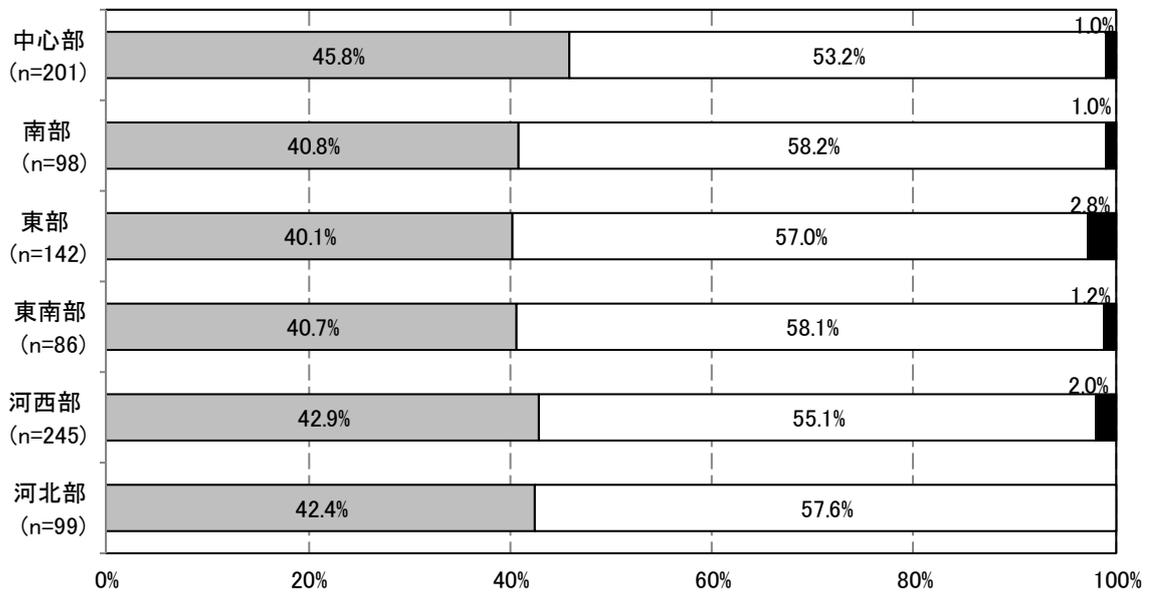
<男女別>



<年代別>



<地域別>



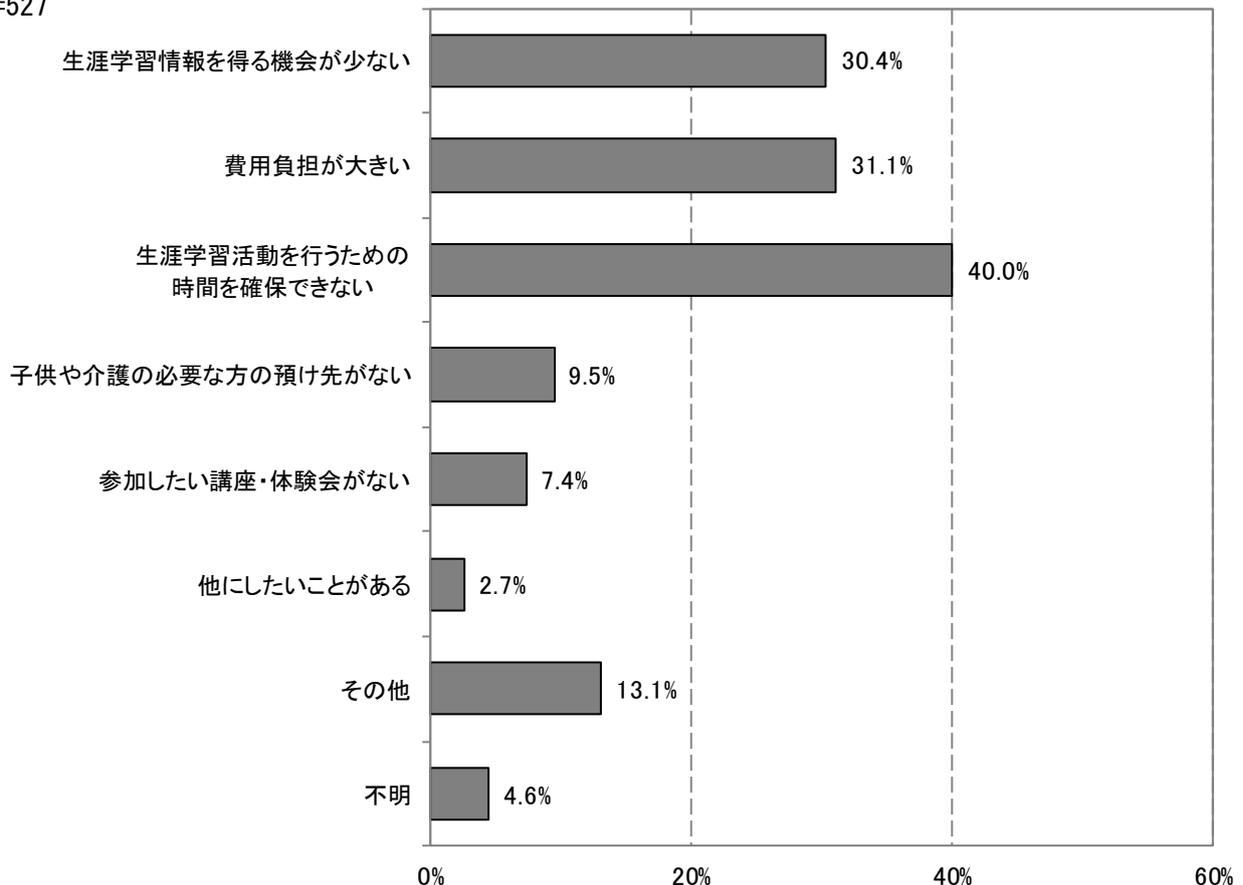
問12-1 生涯学習活動を行わない理由

問12-1 問12で「2. いいえ」と回答された方のみお答えください。生涯学習活動を行っていない理由は何ですか？あてはまるものを全てお選びください。

1. 生涯学習情報を得る機会が少ない
2. 費用負担が大きい
3. 生涯学習活動を行うための時間を確保できない
4. 子供や介護の必要な方の預け先がない
5. 参加したい講座・体験会がない【参加したい講座等：】
6. 他にしたいことがある【したいことの例：】
7. その他

生涯学習活動を行っていない理由として最も多かった回答は「生涯学習活動を行うための時間を確保できない」(40.0%)となった。次いで、「費用負担が大きい」(31.1%)、「生涯学習情報を得る機会が少ない」(30.4%)と続いた。

n=527



参加したい講座等：「ステンドグラス」など

したいことの例：「休息・睡眠」など

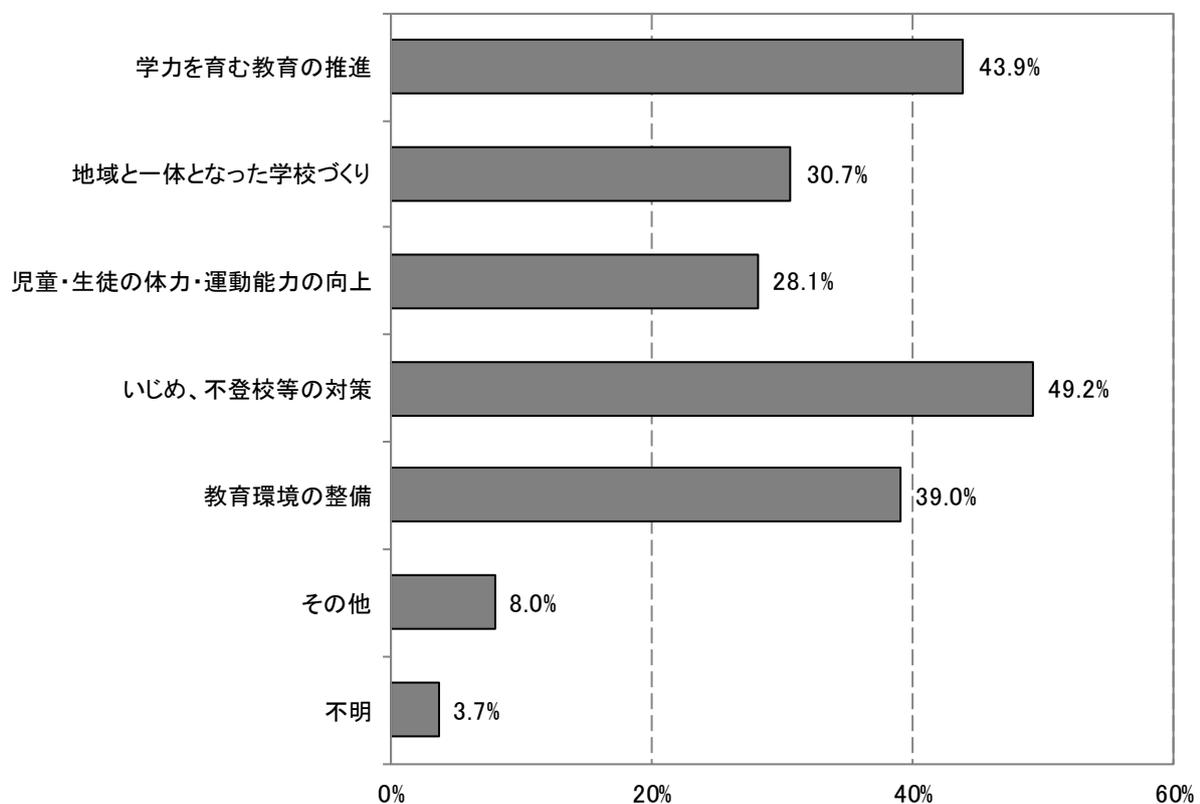
その他：「健康的・体力的に困難」、「したくない」など

問 1 3 学校教育の充実に向けて必要なこと

問 1 3 学校教育の充実に向けて特に必要なことは何だと思えますか？あてはまるものを全てお選びください。

1. 学力を育む教育の推進
2. 地域と一体となった学校づくり
3. 児童・生徒の体力・運動能力の向上
4. いじめ、不登校等の対策
5. 教育環境の整備
6. その他

学校教育の充実に向けて必要なこととして、最も多かった回答は「いじめ、不登校等の対策」(49.2%)となった。次いで、「学力を育む教育の推進」(43.9%)、「教育環境の整備」(39.0%)と続いた。



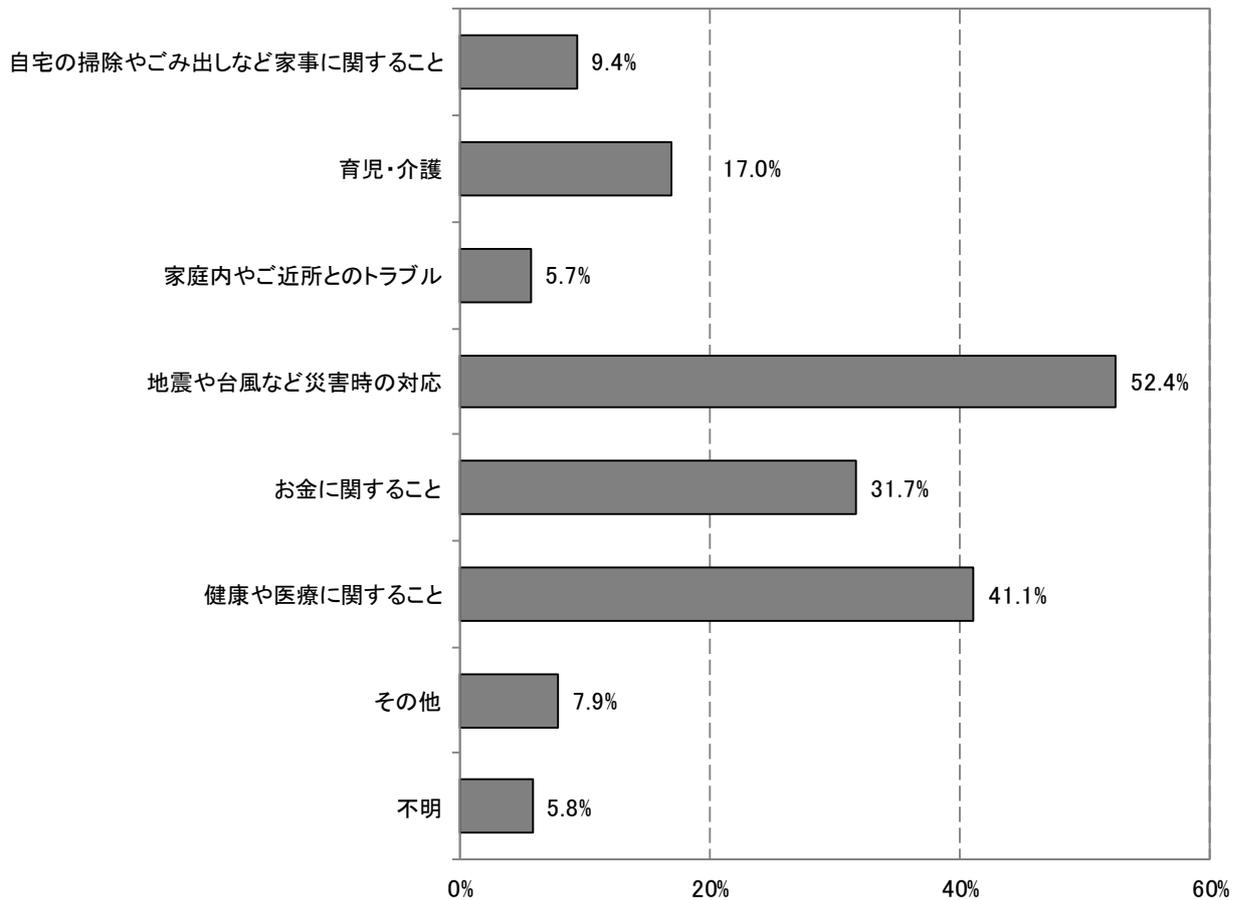
その他：「教員の質の向上」、「道徳・マナー・モラル教育」、「教員の増員」など

問 1 4 日常生活における不安や困りごと

問 1 4 日常生活においてどのような不安や困りごとがありますか？あてはまるものを全てお選びください。

1. 自宅の掃除やごみ出しなど家事に関すること
2. 育児・介護
3. 家庭内やご近所とのトラブル
4. 地震や台風など災害時の対応
5. お金に関すること
6. 健康や医療に関すること
7. その他

日常生活における不安や困りごとで最も多かった回答は、「地震や台風など災害時の対応」(52.4%)となった。次いで、「健康や医療に関すること」(41.1%)、「お金に関すること」(31.7%)と続いた。



その他：「公共交通機関による移動が不便」、「自分もしくは家族の健康」、「道路メンテナンスが不十分で通行しにくい」、「周辺住民との関係」など

問15 相談役として支え合いの活動への参加意向

問15 地域における困りごとの相談役となり、支え合いの活動に参加したいですか？あてはまるものを1つお選びください。

1. 参加したい
2. 今は難しいがいずれ参加したい
3. 参加したくない

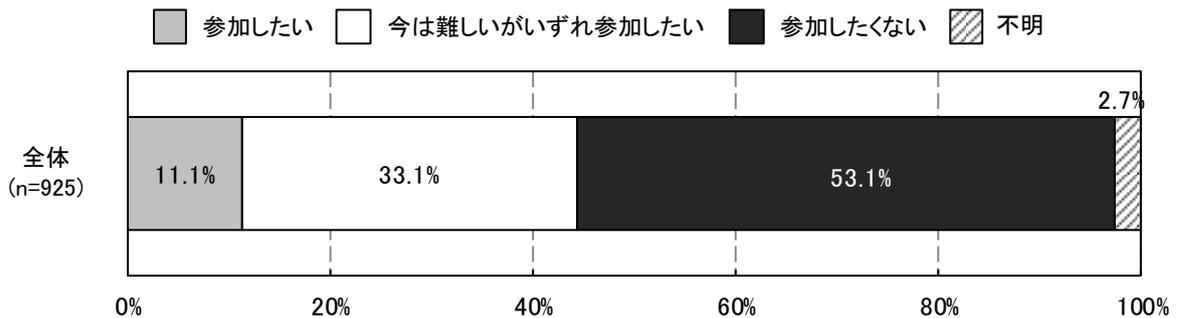
相談役として支え合いの活動への参加意向について、全体で最も多かった回答は「参加したくない」(53.1%)となった。次いで、「今は難しいがいずれ参加したい」(33.1%)、「参加したい」(11.1%)と続いた。

男女別では、「参加したい」と回答された男性の割合は14.1%、女性は8.8%となり、男性のほうが参加したいと考える傾向が見られた。

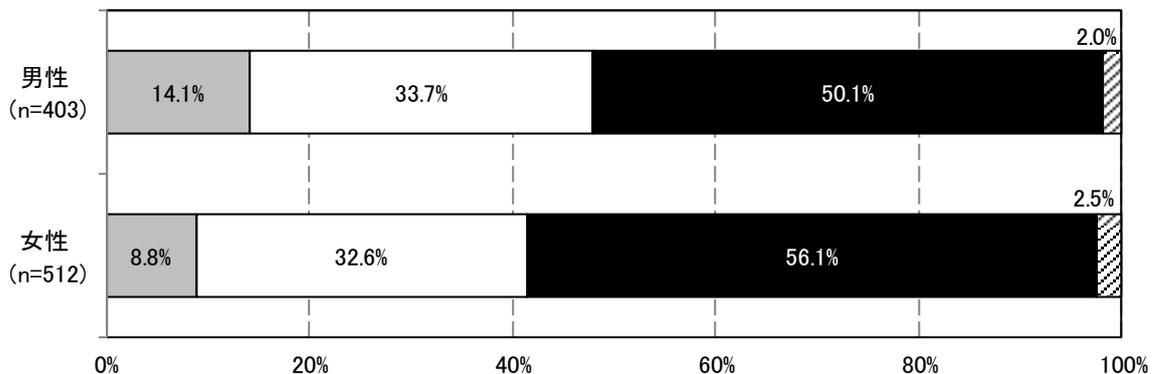
年代別では、「参加したい」と回答された割合が最も高かった年代は「80歳以上」(20.0%)であった。また、「70~79歳」も19.1%となり、70代以上の年代において高い割合となる傾向が見られた。

地域別では、「参加したい」と回答された方の割合が最も高かった地域は「南部」(14.3%)となった。次いで、「東部」(13.4%)、「河北部」(13.1%)と続いた。

<全体>

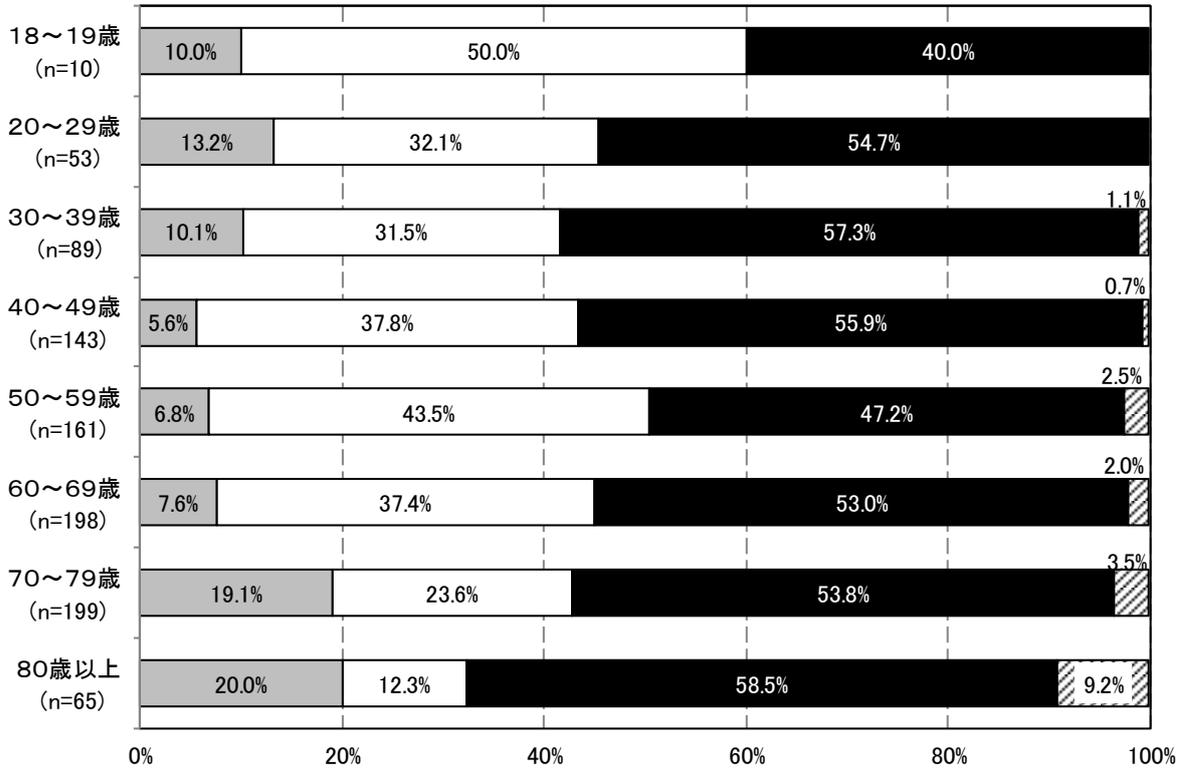


<男女別>

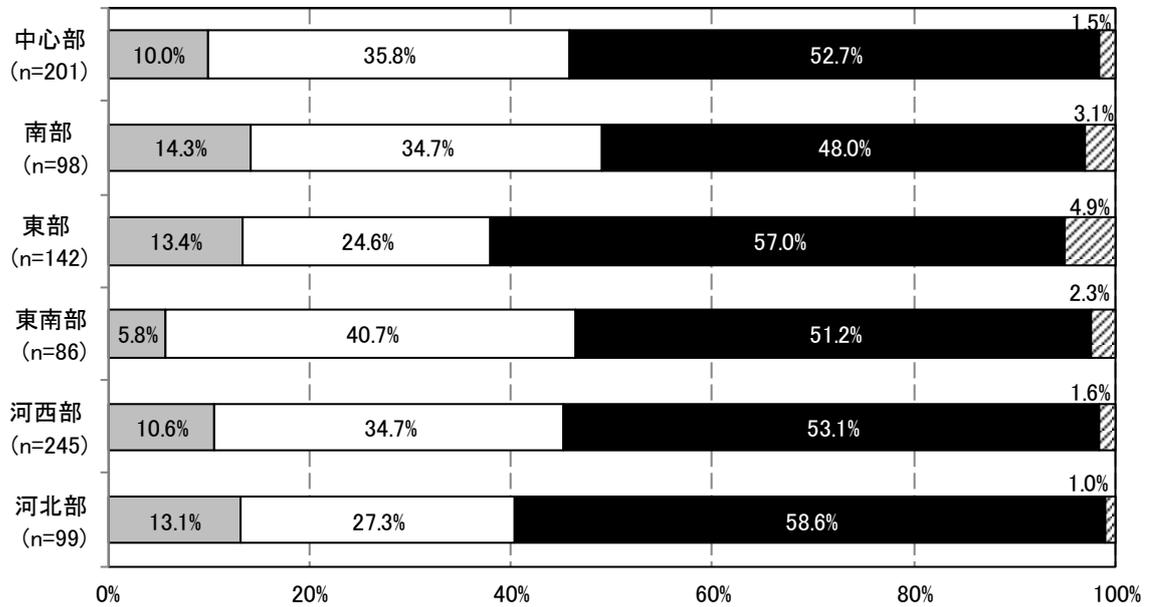


<年代別>

■ 参加したい □ 今は難しいがいずれ参加したい ■ 参加したくない ▨ 不明



<地域別>



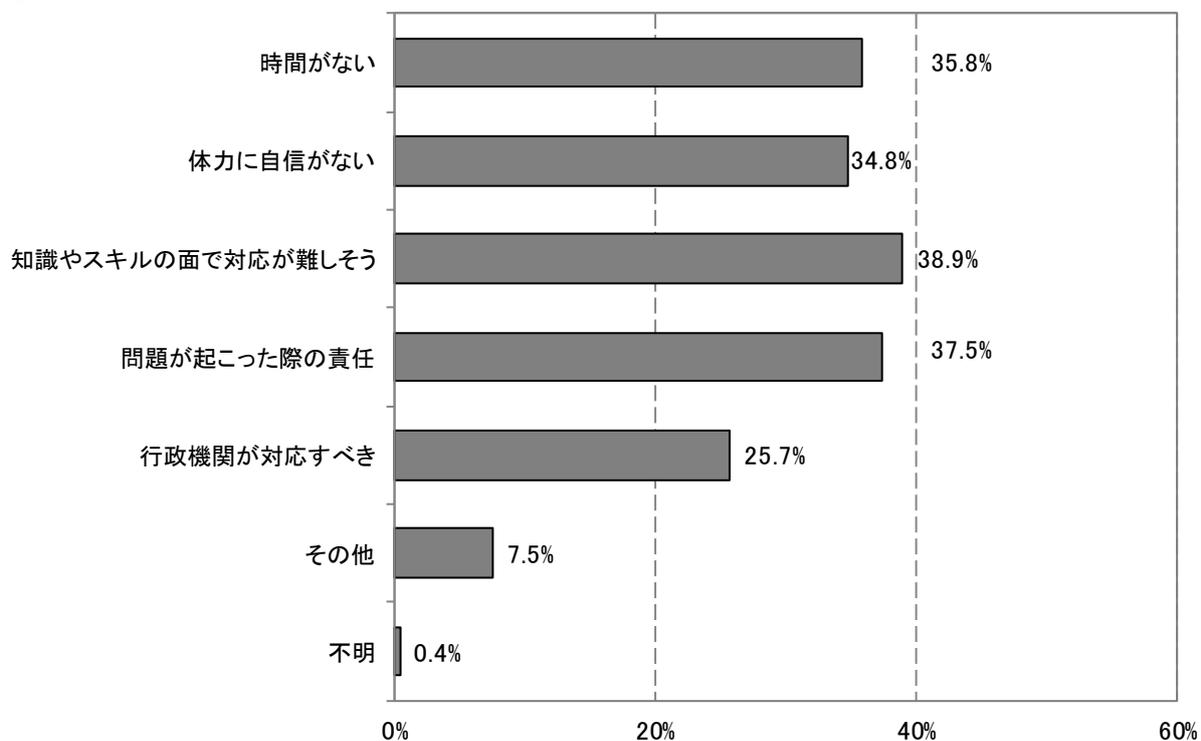
問15-1 相談役として支え合いの活動に参加したくない理由

問15-1 問15で「3. 参加したくない」と回答された方のみお答えください。参加したくない理由は何ですか？あてはまるものを全てお選びください。

1. 時間がない
2. 体力に自信がない
3. 知識やスキルの面で対応が難しそう
4. 問題が起こった際の責任
5. 行政機関が対応すべき
6. その他

相談役として支え合いの活動に参加したくない理由として最も多かった回答は「知識やスキルの面で対応が難しそう」(38.9%)であった。次いで、「問題が起こった際の責任」(37.5%)、「時間がない」(35.8%)と続いた。

n=491



その他：「健康上できない」、「高齢」など

問 1 6 介護保険におけるサービス充実に向け必要な取組

問 1 6 介護保険におけるサービスの充実に向けてどのような取組が必要だと思いますか？あてはまるものを全てお選びください。

1. 自宅で介護を行えるように、在宅サービスを充実する
2. 施設に入所して生活できるように、施設サービスを充実する
3. 困ったときに身近ですぐに相談に乗ってもらえる場を充実する
4. 介護に関する情報収集ができる手段を充実する
5. 介護予防のための講座や教室を充実する
6. 介護と医療が必要となったときに、在宅で両方のサービスを受けられる体制を充実する
7. 介護と医療が必要となったときに、施設で両方のサービスを受けられる体制を充実する

※介護予防とは、「できる限り介護が必要にならないようにする」「もし介護が必要になっても、それ以上悪化させないようにする」ことです。

介護保険におけるサービス充実に向け必要な取組として、最も多かった回答は「困ったときに身近ですぐに相談に乗ってもらえる場を充実する」(46.3%)であった。次いで、「介護と医療が必要となったときに、施設で両方のサービスを受けられる体制を充実する」(41.3%)、「介護と医療が必要となったときに、在宅で両方のサービスを受けられる体制を充実する」(41.2%)と続いた。

